

未来型プロジェクト<ICT> (Project for a Sustainable Future <ICT>) 達成度評価リスト

2025年度(令和7年度)

到達目標	レベル3	レベル2	レベル1	実施状況 (含:月報)	報告書	報告会
1. 技術者の責任と貢献を自覚することができる。(G)	技術者の責任を自覚して行動することができる。	技術者の社会的責任を説明することができる。	社会における技術者の役割を説明することができる。	○	○	
2. 仕事を計画的に進める能力を育成することができる。(G)	月報により、計画の進捗を説明することができる。	演習開始前に計画を立てることができる。	計画的に進めることの重要性を説明することができる。	○	○	
3. 演習先での協働を通して、技術者として求められる「報連相」(報告・連絡・相談)の重要性を説明できる。(F)	月報以外にも、「報連相」を適切に実践することができる。	月報を通して「報連相」を実践することができる。	「報連相」の重要性を説明することができる。	○		○
4. 大学での学びと、演習先での実践との関係性を通して、地域の展望を説明できる。(H)	大学での学びと演習先での実践を関連付けて、演習先が実践している地域貢献の意義を説明することができる。	大学での学びと演習先での実践を関連付けて、演習先が実践している地域貢献を説明することができる。	大学での学びと演習先での実践の関係を説明することができる。		○	○

※原則として、全ての到達目標に対してレベル1以上を合格とします。

■学位授与の方針

F.【コミュニケーション力】

論理的思考に基づいた、日本語による記述力、口頭発表力、討議能力、企画提案力、技術文書(和文、英文)の読解能力、外国語によるコミュニケーション能力を身に付けている。

G.【協働を通じた自己管理能力】

多様な他者との協働の中で自己の役割を認識、表現し、自己管理をする力を身に付けている。

H.【未来志向力】

所属学科に応じた工学分野(*)の発展と裾野の広がりに関心を持ち、グローバルな視点で主体性と協調性をもって課題を発見し、解決策を提案できる技能と実践力を身に付けている。

(*) 情報通信工学科:情報通信技術(ICT), 情報システム工学科:情報工学, 機械工学, インタフェース工学, 人間情報工学科:情報工学, 生体機能学, 機器設計学